

ボールの特性レポート

BALL REPORT



ボール名 セントリフューガル・マス	投球者 徳江 和則	センター 平和島スターボウル
RG 2.510	△RG 0.055	●ピン ★PAP ✕CG ■バランスホール

テストボール

フレアーの幅 インチ

表面加工
 箱出し状態
 加工
 ペーパー
 ポリッシュ
 研磨剤

PAPからピンとの距離
5 1/4 インチ

番

比較対照ボール：ベンデッタスナイパー

フレアーの幅 インチ

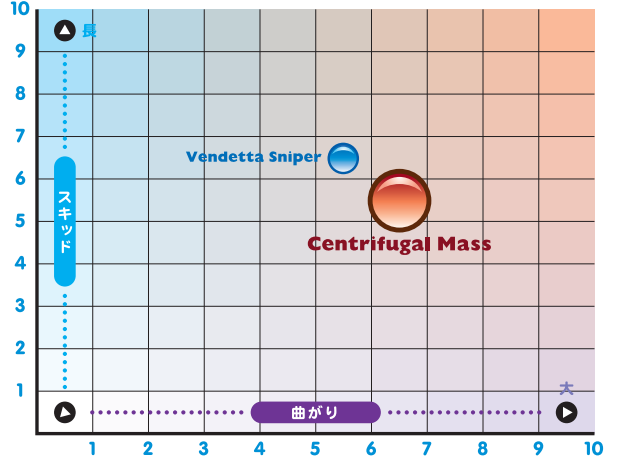
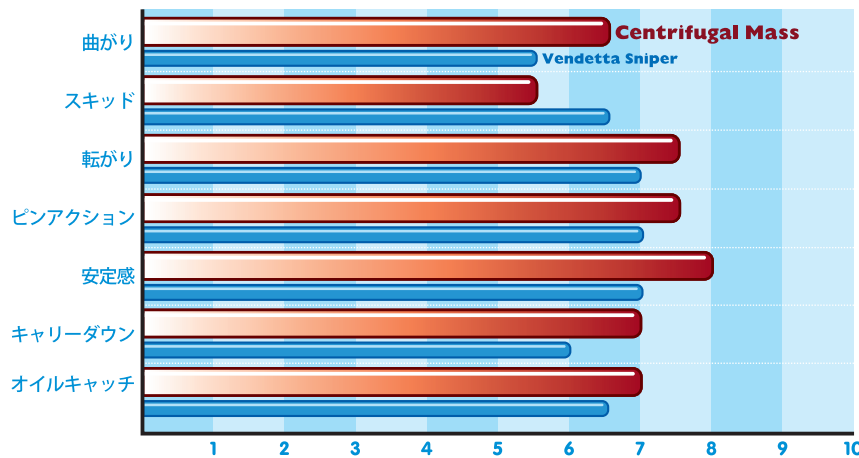
表面加工
 箱出し状態
 加工
 ペーパー
 ポリッシュ
 研磨剤

PAPからピンとの距離
5 1/2 インチ

番



- ヘビー
- ミディアム
- ライト
- バフ



レーンコンディション: Light Oil, Light to Medium, Medium Oil, Medium to Heavy, Heavy Oil

バックエンドリアクション: Smooth, Smooth to Arc, Arc, Arc to Sharp, Sharp Angle

レンジス: Early Roll, Early to Med, Med-Lane, Med to Late, Late Roll

ボールの評価

特記事項

ダイノタン初のマスバイアスボール。スピントイムも速く、転がりの中にもしっかりと軸移動を感じる。カバーストックは持続的なキャッチ力を感じる素材に感じ、サンドの表面加工も伴いミッドエリアからのコントロールしやすいスペックです。バックエンドで派手なリアクションは感じられないが、ミッドエリアからマスバイアスの軸移動を感じ、緩やかに曲がり始めるため曲がりのイメージが読みやすい。

このボールを投球し感じたのは、対応できるコンディションの幅が広く、それでいて動きが安定していることです。例えば、リアクティブ要素が強いとドライゾーンでオーバーアクションを起こし、突然曲がったり伸びたりを感じ、パーティクル要素が強いと手前の薄いオイルに反応し曲がり終わったりを感ずります。

このボールは転がりの中にも持続的なキャッチ力を感じ軸移動しているため、スキッドと回転方向から得られる曲がりのエネルギー放出を一気に行わず、バックエンドに至るまで少しずつ放出しているものと思われます。

結果、ミッドエリアからの曲がり始め緩やかに弧を描くのもうなずけます。現在主流のボールと比べるとバックエンドのリアクションに不足を感じるのもその理由の一つに挙げられます。最近のUSボールはコントロール性能を高め、レーンアジャスティングしやすいボールが多くなってきています。このボールもその代表的な一つと言っても良いでしょう。

ダイノタン初のマスバイアスボール。軸移動が早く、コンディションに左右されない安定した軌道を供給してくれるボールです。玄人好みの出来です。